

第2章

栃木県の保健・医療の現状

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 地域の特性 | 2 人口の特性 |
| 3 受療の状況 | 4 医療資源の状況 |
| 5 医療費等の状況 | |

1 地域の特性

(1) 地勢

本県は、関東地方北部に位置し、東は茨城県、西は群馬県、南は茨城、埼玉、群馬の三県、北は福島県に接する内陸県で、首都東京の北方 60 km から 160 km の位置にあります。東京の持つ世界有数の質の高い様々な機能やサービスはもとより、首都圏内にある国際都市機能や研究開発機能などの活用が容易な環境です。

また、県土の約 55% を森林が占める自然豊かな県であり、県の東部は、標高 300m から 1,000m のなだらかな山々からなる八溝山地があり、北部から西部は、那須連山、日光連山、帝釈(たいしゃく)山地、足尾山地が連なる山岳地帯で、特に日光連山は、白根山、男体山、女峰山など標高 2,000m を超える火山が連なります。

さらに、東西約 84 km、南北約 98 km に及ぶ関東地方最大の面積を有しています。6,408.09 km² (全国第 20 位) の県土の中には 14 市 11 町がありますが村はありません。

県庁所在地の宇都宮市は、県人口の約 4 分の 1 に当たる人口を擁する中核市で、全国 1,718 市町村中 26 番目(特別区を除く)の規模を誇ります。また、県北西部の日光市は、県面積の 22.6% を占める 1,449.83 km² で、岐阜県高山市、静岡県浜松市に次いで全国第 3 位となる広大な市です。

県央・県南部に広がる平野、那珂川、鬼怒川、渡良瀬川をはじめとする河川など暮らしや産業活動の基盤となる土地や水資源にも恵まれているだけでなく、楕円形を成し比較的平坦な地形であることから、県内各地への移動が容易で地域間交流がしやすい環境でもあります。

(2) 交通

県を南北に貫いて東北自動車道、国道 4 号、新 4 号国道の広域幹線道路が走り、東西方向には北関東自動車道、国道 50 号が県南部と茨城県・群馬県を結んでいます。

また、都心から放射状に整備されてきた首都圏の高速道路を環状に接続する圏央道の整備が進み、本県から都心を経由せずとも西は東名高速道路、東は東関東自動車道に行けるようになりました。この高速道路ネットワークにより、西日本や世界とつながる成田空港との連携強化が期待されます。

鉄道を見ると、南北の幹線として東北新幹線、JR 宇都宮線、東武鉄道により首都東京と結ばれ、東西の幹線として JR 水戸線、両毛線により茨城県・群馬県と結ばれています。

空路の場合、成田空港へは圏央道、茨城空港へは北関東自動車道、福島空港へは東北自動車道を経由してアクセスできます。

2 人口の特性

(1) 総人口

本県の総人口は、昭和30年代以降ほぼ一貫して増加が続き、平成9(1997)年9月に200万人に到達しました。その後はほぼ横ばいで推移していましたが、平成17(2005)年をピーク(2,017,664人)に減少傾向が続いており、平成29(2017)年10月1日現在で1,961,963人となっています。

現在の傾向が続けば、本県の人口は平成42(2030)年には約180万人、平成52(2040)年には約164万人に減少すると予測されています。

(2) 年齢階級別人口

昭和60(1985)年頃は、4人に1人が年少人口(0～14歳)、10人に1人が老年人口(65歳以上)という人口構成でしたが、その後、平均寿命²の延伸と出生率³の低下により高齢化が進み、平成10(1998)年には老年人口が年少人口を上回る幼老逆転の状況が生じ、以降その差が拡大し続けており、平成29(2017)年10月1日現在では、年少人口の割合が12.5%、生産年齢人口(15～64歳)の割合が60.2%、老年人口の割合(＝高齢化率)が27.3%となっています。

今後更に年少人口及び生産年齢人口の減少と老年人口の増加が進み、平成52(2040)年には老年人口の割合が36%に達すると予測されています。

また、本県の後期高齢者(75歳以上)人口は、平成29(2017)年の25.3万人から、団塊の世代が全て75歳に到達する平成37(2025)年には32.2万人と大幅に増加することが予想されています。

従属人口指数⁴は平成29(2017)年の66.24から上昇することが予想されており、平成52(2040)年には87.21と、働き手である生産年齢人口が年少人口と老年人口を支える人数は9人で6人という状況から9人で8人という状況へと上昇することが予想されています。

高齢化率を二次保健医療圏別で見ると、県西保健医療圏で31.1%、両毛保健医療圏で30.6%となっており、高齢化がより進んでいる傾向が見られます。

² 0歳における平均余命(ある年齢の者が、その年齢以降に生存する年数の平均)

³ 人口千人に対する出産数の比率

⁴ [(年少人口+老年人口)÷生産年齢人口]×100で算出され、年少人口及び老年人口に対する生産年齢人口の扶養負担度を示す。

二次保健医療圏別人口構成

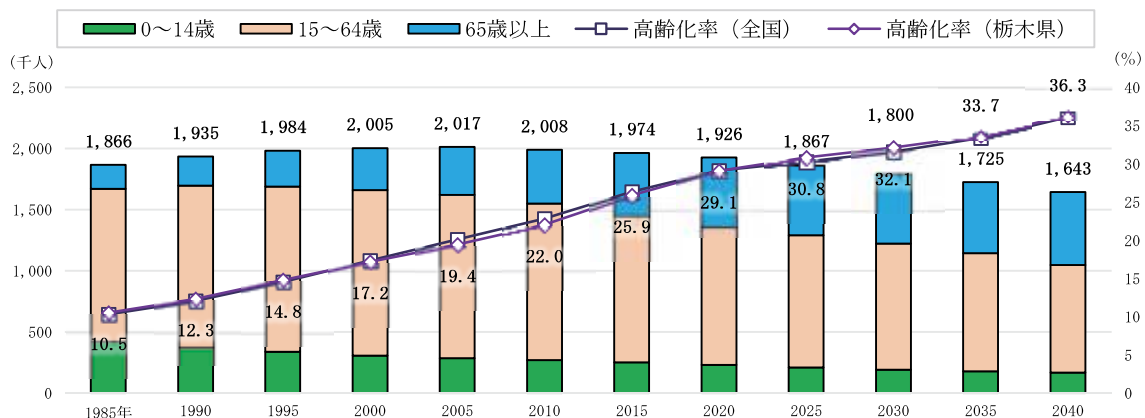
区分	総数	男	女	0～14歳	15～64歳	65歳以上	高齢化率
県北	376,088	188,600	187,488	45,311	221,261	106,432	28.5%
県西	178,245	87,230	91,015	20,331	102,188	55,260	31.1%
宇都宮	520,197	260,048	260,149	69,960	324,305	125,157	24.1%
県東	141,434	70,952	70,482	18,217	83,414	39,418	27.9%
県南	480,779	239,884	240,895	60,412	290,763	126,358	26.5%
両毛	265,220	130,389	134,831	30,548	152,573	80,644	30.6%
総数	1,961,963	977,103	984,860	244,779	1,174,504	533,269	27.3%

(単位：人)

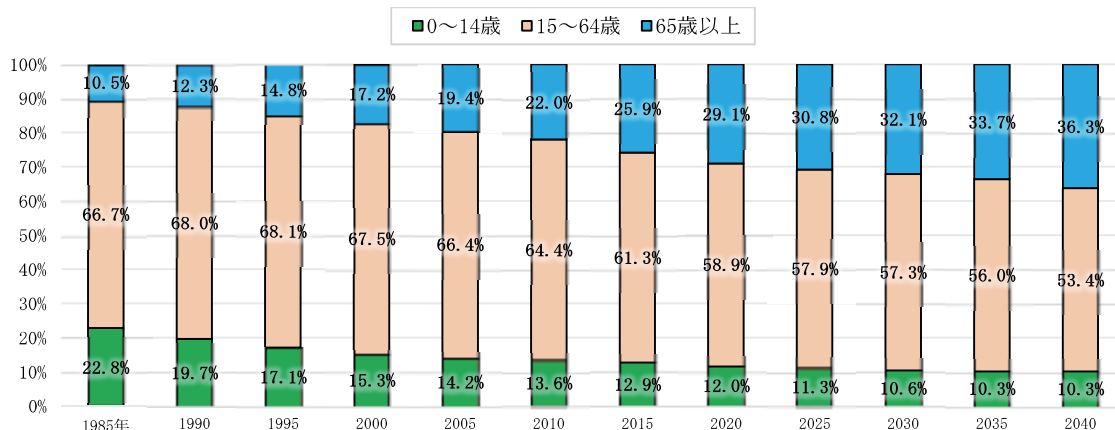
【資料：栃木県「平成29年栃木県毎月人口調査報告書」より作成（平成29（2017）年10月1日現在）】

※年齢3区分の欄は年齢不詳を除く

本県の人口・将来推計人口及び高齢化率の推移



(構成割合)



【資料：昭和60（1985）年から平成27（2015）年までの栃木県の人口及び高齢化率は栃木県「平成29年栃木県毎月人口調査報告書」より作成、平成32（2020）年から平成52（2040）年までの人口及び昭和60（1985）年から平成52（2040）年までの全国の高齢化率は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（H25.3推計）」及び「人口統計調査」より作成】

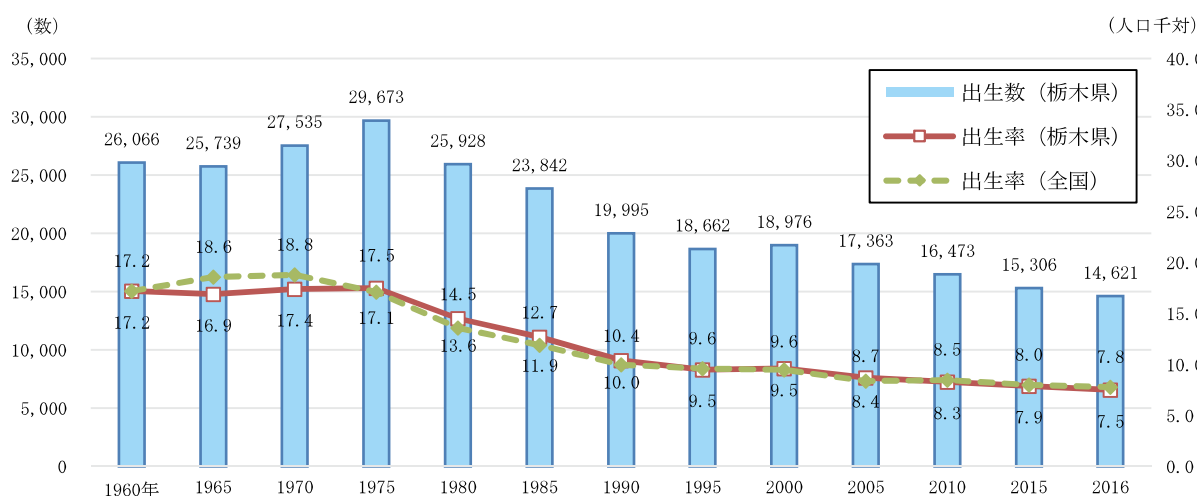
(3) 出生

平成 28 (2016) 年の本県の出生数は 14,621 人で、出生率 (人口千対) は 7.5 (全国 7.8) となっています。

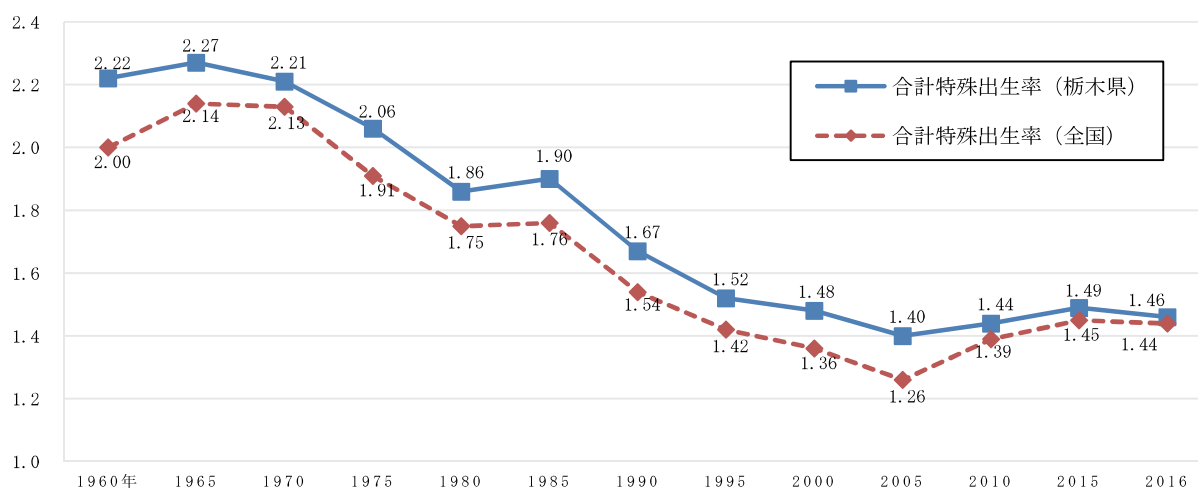
合計特殊出生率⁵は、昭和 50 (1975) 年には 2.06 (全国 1.91) でしたが、その後急速に低下し、平成 28 (2016) 年には現在の人口を維持するのに必要な水準である 2.08 を大きく下回る 1.46 (全国 1.44) となっており、少子化が顕著に進行しています。

出生率を二次保健医療圏別で見ると、宇都宮保健医療圏で 8.8 となり県全体の値を上回っているほかは、いずれの保健医療圏でも県全体の値を下回っています。

出生数及び出生率 (人口千対) の推移



合計特殊出生率の推移



【資料：厚生労働省「人口動態統計」】

⁵ 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率〔母の年齢別出生数/年齢別女子人口〕を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数に相当する。

(4) 死亡

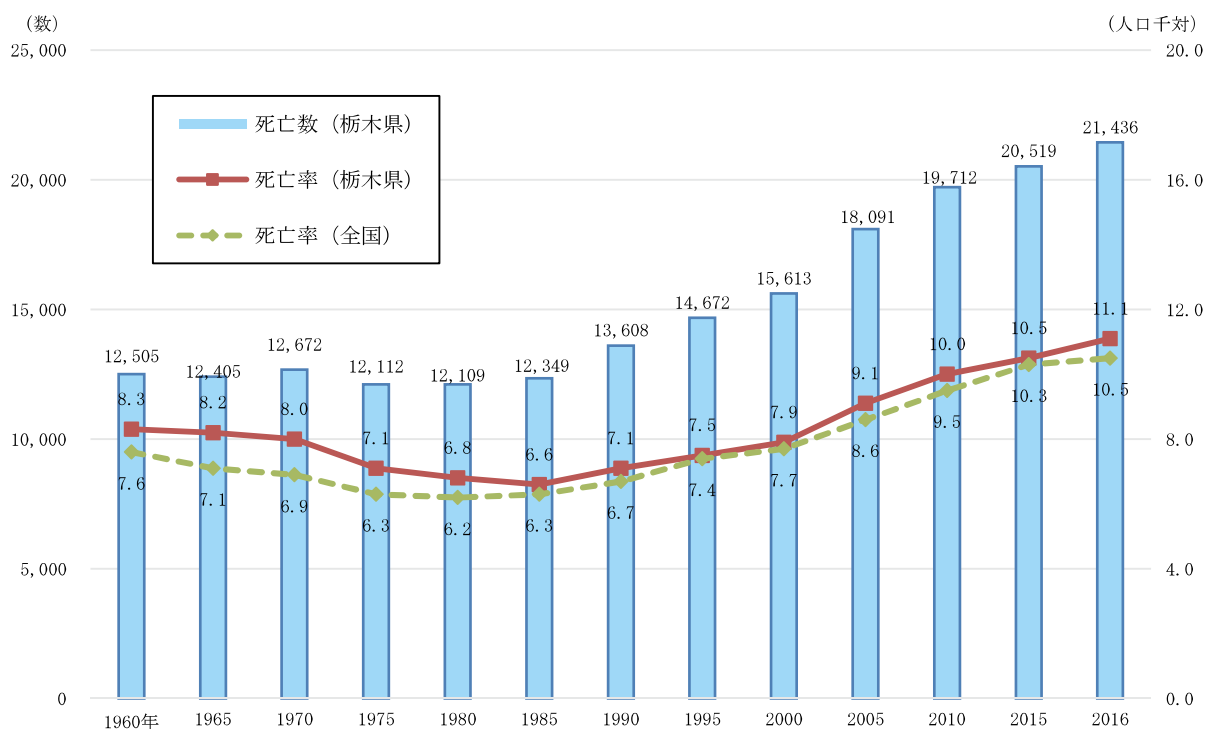
平成 28 (2016) 年の本県の死亡数は 21,436 人で、初めて 2 万 1 千人を超え、また、同年の出生数を上回っています。

死亡率⁶ (人口千対) は、昭和 62 (1987) 年に 6.3 まで低下した後、緩やかに上昇しながら推移してきており、平成 28 (2016) 年は 11.1 (全国 10.5) となっています。

平成 28 (2016) 年において、新生児死亡率⁷、乳児死亡率⁸、周産期死亡率⁹は全国平均を下回りましたが、死産率¹⁰は全国平均よりも高い数値となっています。

死亡率を二次保健医療圏別で見ると、県西保健医療圏で 13.2、両毛保健医療圏で 12.9 となっており、県西部で高い傾向が見られます。

死亡数及び死亡率 (人口千対) の推移



【資料：厚生労働省「人口動態統計」】

⁶ 人口千人に対する死亡数の比率

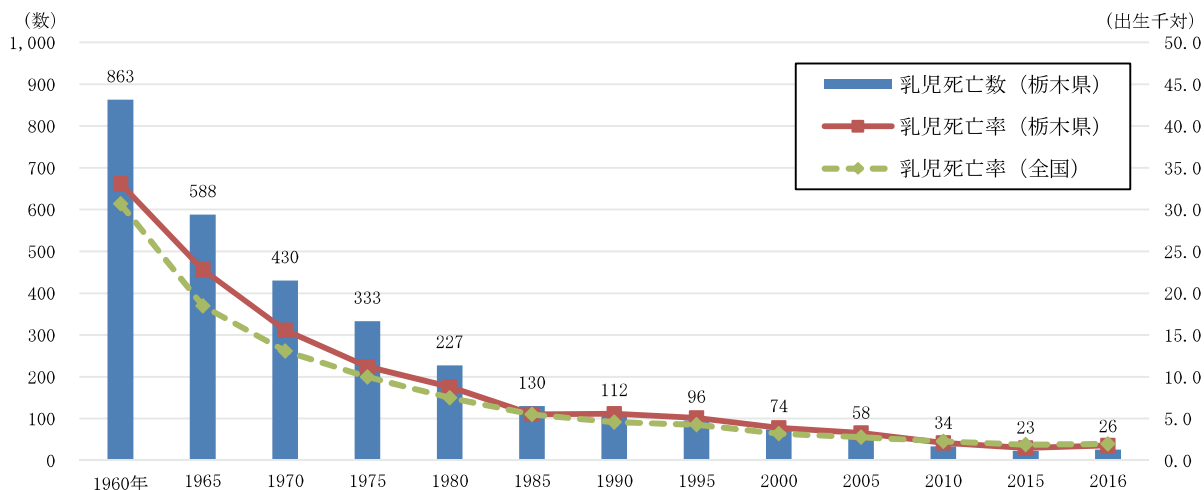
⁷ 出生千に対する生後 28 日未満の死亡数の比率

⁸ 出生千に対する 1 歳未満の死亡数の比率

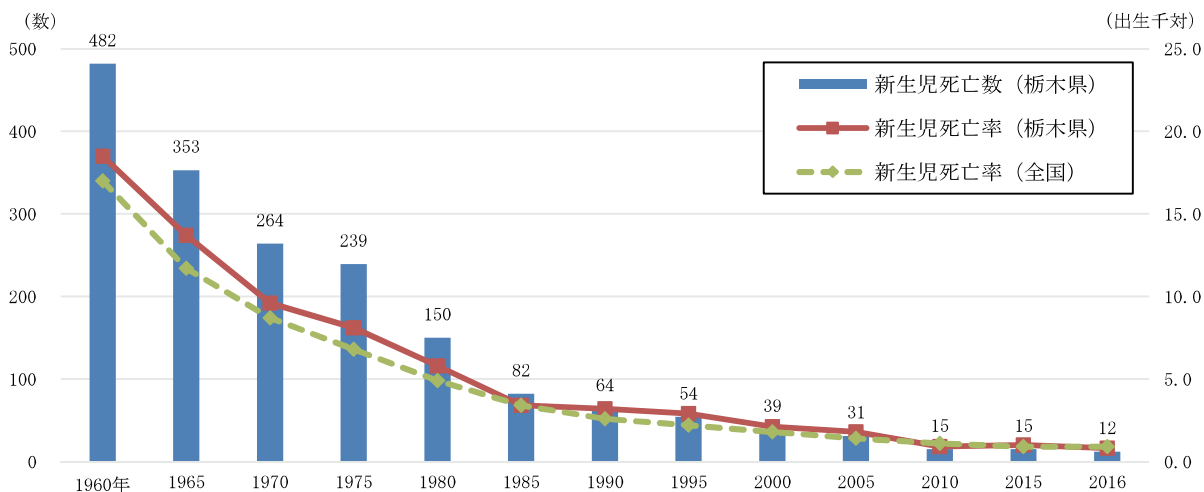
⁹ 出産数 (出生数+妊娠満 22 週以降の死産数) 千に対する妊娠満 22 週以降の死産に生後 7 日未満の早期新生児死亡を加えた数の比率

¹⁰ 出産千に対する妊娠 12 週以後の死児の出産数の比率

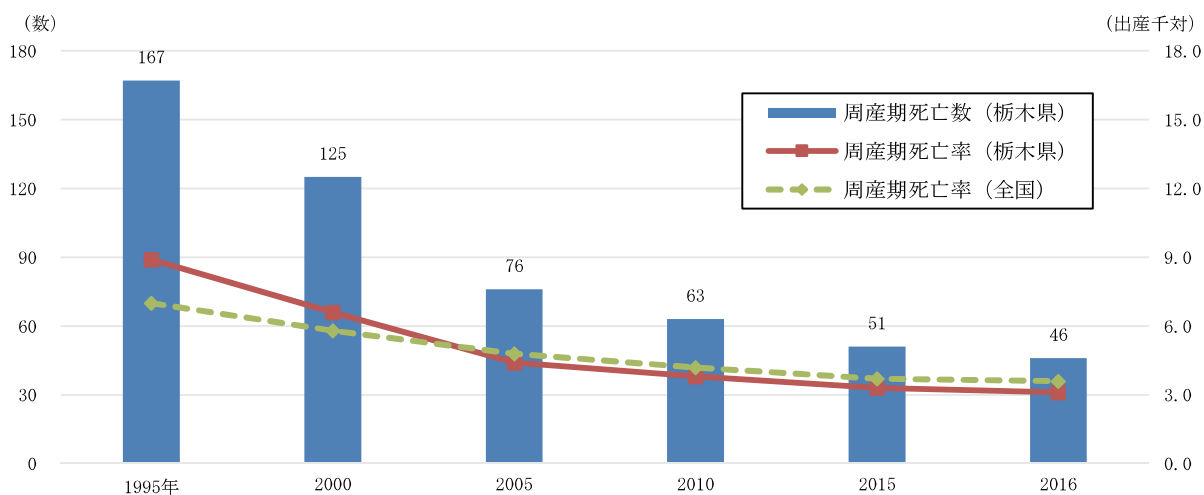
乳児死亡数及び乳児死亡率（出生千対）の推移



新生児死亡数及び新生児死亡率（出生千対）の推移

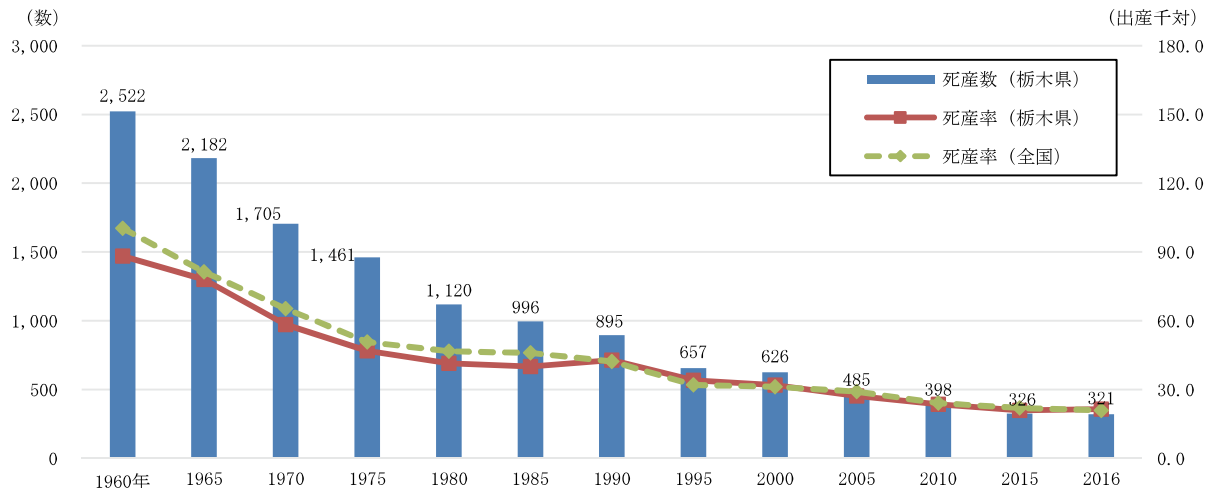


周産期死亡数及び周産期死亡率（出産千対）の推移



【資料：厚生労働省「人口動態統計」】

死産数及び死産率（出産千対）の推移



全国、栃木県、二次保健医療圏別の出生、死亡、乳児死亡、新生児死亡、死産、周産期死亡の状況（2016年）

区分	出生 (人口千対)		死亡 (人口千対)		乳児死亡 (出生千対)		新生児死亡 (出生千対)		死産 (出産千対)		周産期死亡 (出産千対)	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
県北	2,598	6.9	4,212	11.1	6	2.3	2	0.8	56	21.1	11	4.2
県西	1,134	6.3	2,376	13.2	1	0.9	1	0.9	14	12.2	2	1.8
宇都宮	4,587	8.8	4,699	9.0	5	1.1	3	0.7	103	22.0	14	3.0
県東	1,042	7.3	1,713	12.0	4	3.8	1	1.0	20	18.8	2	1.9
県南	3,490	7.3	4,998	10.4	5	1.4	3	0.9	83	23.2	14	4.0
両毛	1,770	6.6	3,438	12.9	5	2.8	2	1.1	45	24.8	3	1.7
栃木県	14,621	7.5	21,436	11.1	26	1.8	12	0.8	321	21.5	46	3.1
全国	976,979	7.8	1,307,765	10.5	1,928	2.0	874	0.9	20,938	21.0	3,522	3.6

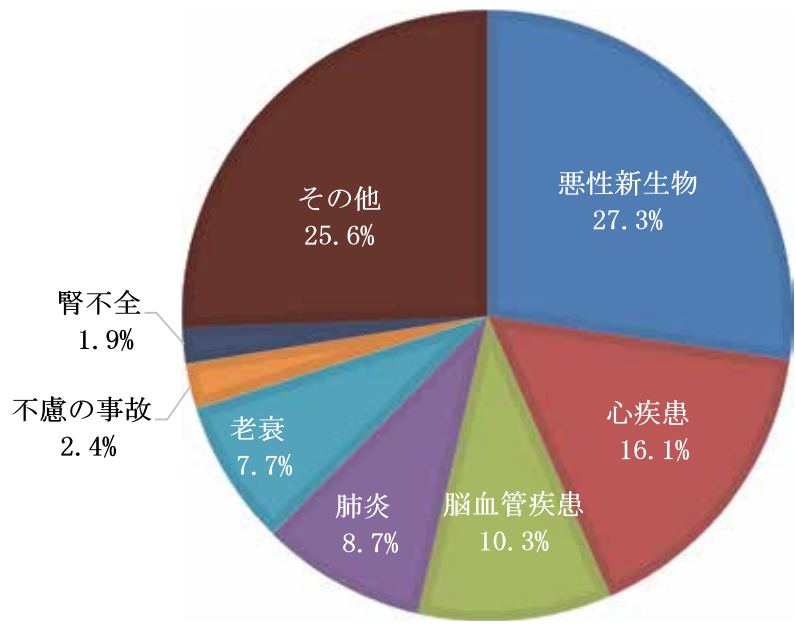
【資料：厚生労働省「人口動態統計」】

平成28(2016)年の本県における死因の順位(構成比)は、第1位悪性新生物(27.3%)、第2位心疾患(16.1%)、第3位脳血管疾患(10.3%)となっており、これらの三大死因による死亡が本県総死亡数の5割強を占めています。

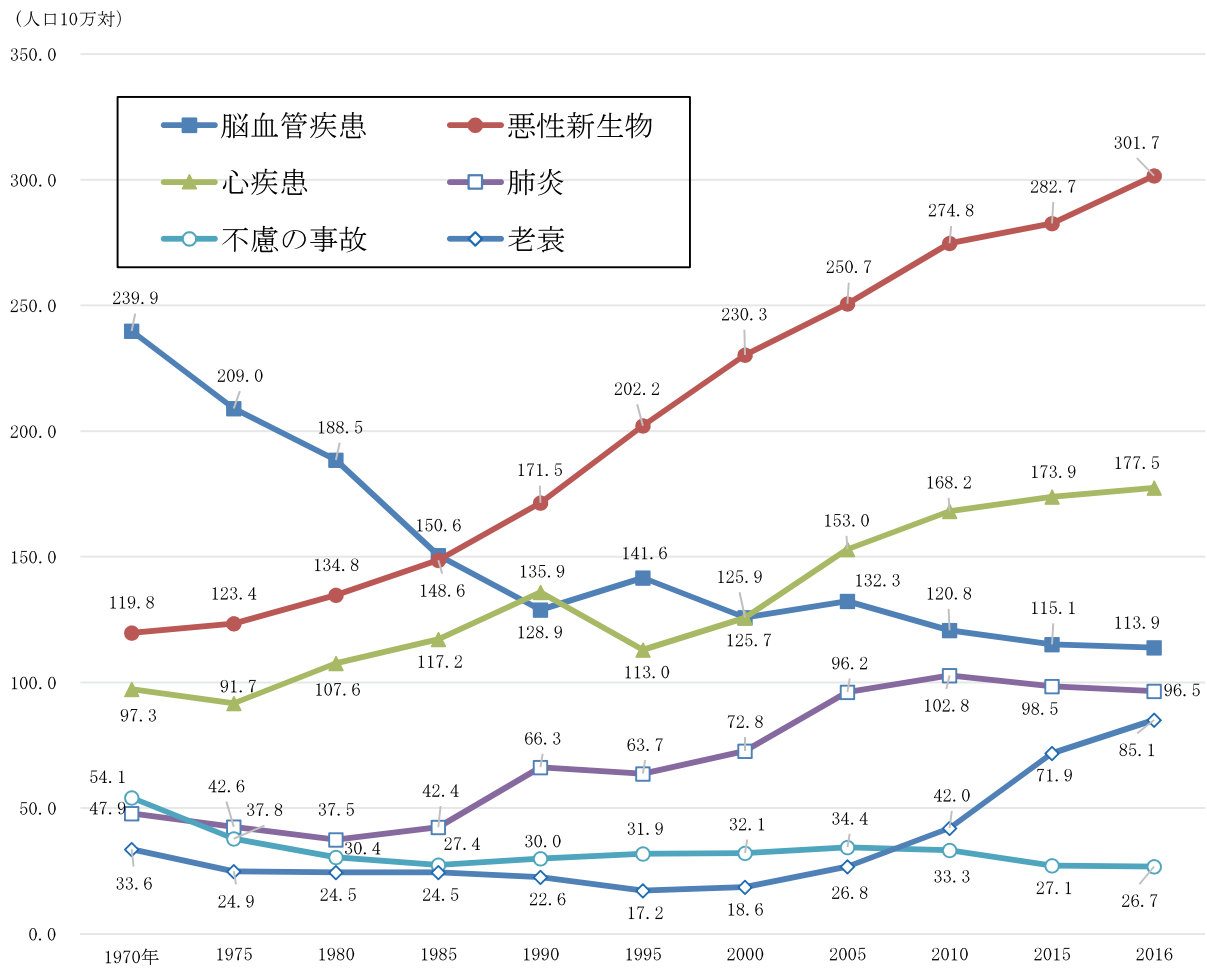
年次推移を見てみると、悪性新生物は増加傾向、心疾患は微増傾向、脳血管疾患は減少からここ数年横ばいの傾向となっています。

また、肺炎が増加傾向にあり、全国では脳血管疾患を上回って死因の順位の第3位、本県では脳血管疾患に次いで第4位(8.7%)となっており、また、本県における肺炎による死亡総数の9割近くが75歳以上となっています。

本県における主要死因別死亡数の構成割合（2016年）



本県における主要死因別死亡率の推移

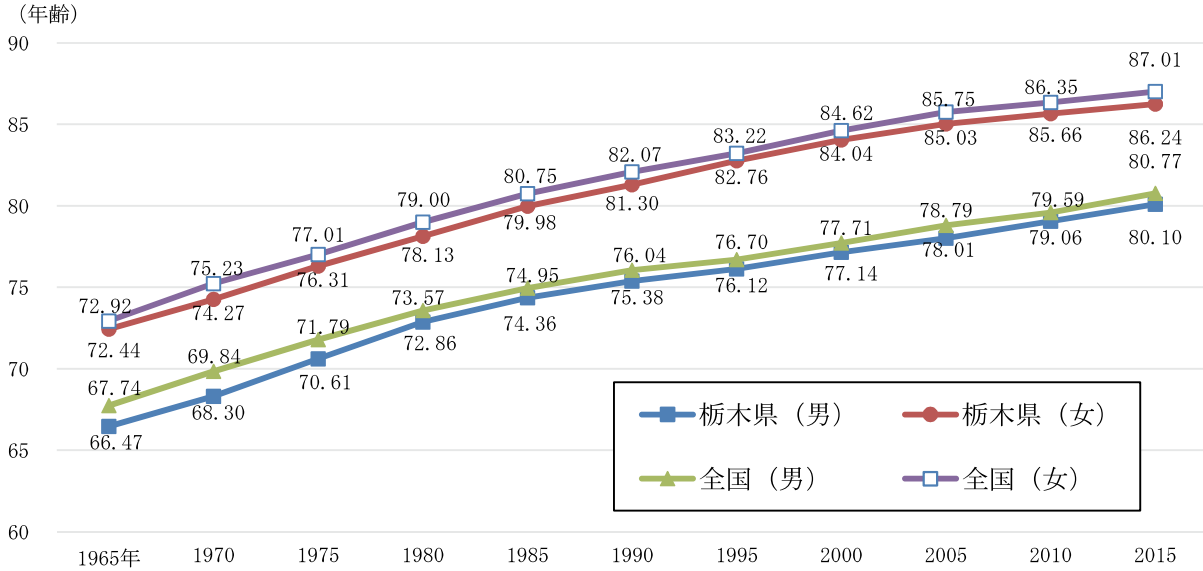


【資料：厚生労働省「人口動態統計」】

(5) 平均寿命

本県の平均寿命は男女とも着実に伸びていますが、昭和 40（1965）年以降、全国値を下回っています。

平均寿命の推移

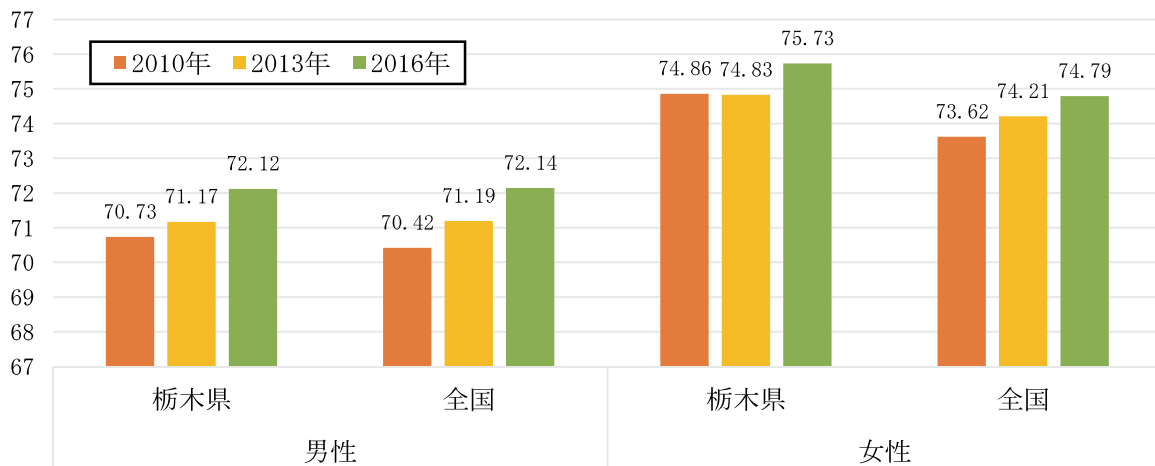


【資料：厚生労働省「都道府県別生命表」】

(6) 健康寿命

平成 28（2016）年の本県の健康寿命¹¹は、男性 72.12 年、女性 75.73 年であり、平成 22（2010）年と比較して男性、女性とも上回っています。

健康寿命（性別、栃木県・全国）



【資料：厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」】

¹¹ 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間（平均寿命－日常生活の健康上の制限がある「不健康な期間」）

3 受療の状況

(1) 患者数

入院患者について、患者調査によると、調査対象日（各年10月中旬の3日間のうち医療施設ごとに定める1日）の県内の推計入院患者数は減少傾向にありますが、65歳以上の推計患者数は増加傾向にあり、入院患者の高齢化が進んでいます。

また、平成28（2016）年度に実施した栃木県医療実態調査によると、調査対象日（平成28（2016）年9月1日）の県内の入院患者数は、総数13,052人でした。うち、病院・診療所別では、病院が12,571人（96.3%）、診療所が481人（3.7%）となっています。性別では、男性が6,397人（49.0%）、女性が6,626人（50.8%）となっています。年齢階級別では、0歳～14歳が403人（3.1%）、15歳～64歳が3,904人（29.9%）、65歳以上が8,722人（66.8%）でした。

65歳以上の占める割合について、二次保健医療圏別では、県北保健医療圏が67.7%、県西保健医療圏が71.8%、宇都宮保健医療圏が65.6%、県東保健医療圏が63.6%、県南保健医療圏が66.6%、両毛保健医療圏が70.2%と、県西・両毛保健医療圏では7割を超えており、県西保健医療圏の女性で74.8%と最高でした。

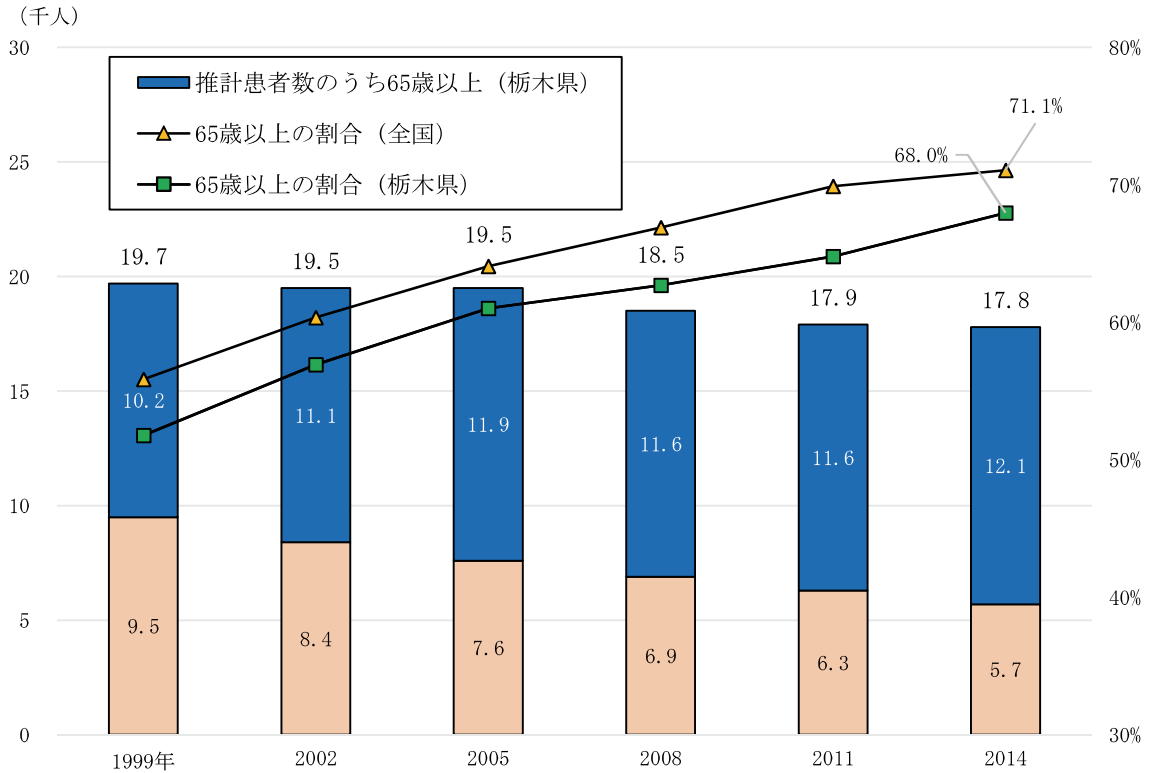
入院の経緯は、予定入院が6,446人（49.4%）、救急以外の予定外入院が3,110人（23.8%）、救急入院が3,113人（23.9%）となっており、65歳以上に限ると、救急入院（26.7%）における割合が高くなります。

入院前の場所は、家庭等が8,732人（66.9%）、当院（転棟）が331人（2.5%）、他院（転院）が2,878人（22.1%）、他施設に入所が691人（5.3%）となっており、65歳以上に限ると、他院（転院）（24.4%）、他施設に入所（6.7%）における割合が高くなります。

外来患者について、平成26年患者調査によると、調査対象日の県内の推計外来患者数は106.8千人でした。うち65歳以上は47.1千人（44.1%）となっており、外来患者も高齢化が進んでいます。

また、第2回NDBオープンデータによると、対象期間（平成27（2015）年4月から平成28（2016）年3月）の県内の初診料・再診料・外来診療料を合わせた算定回数は23,700,634件（1か月当たり1,975,053件）でした。

推計入院患者数の推移



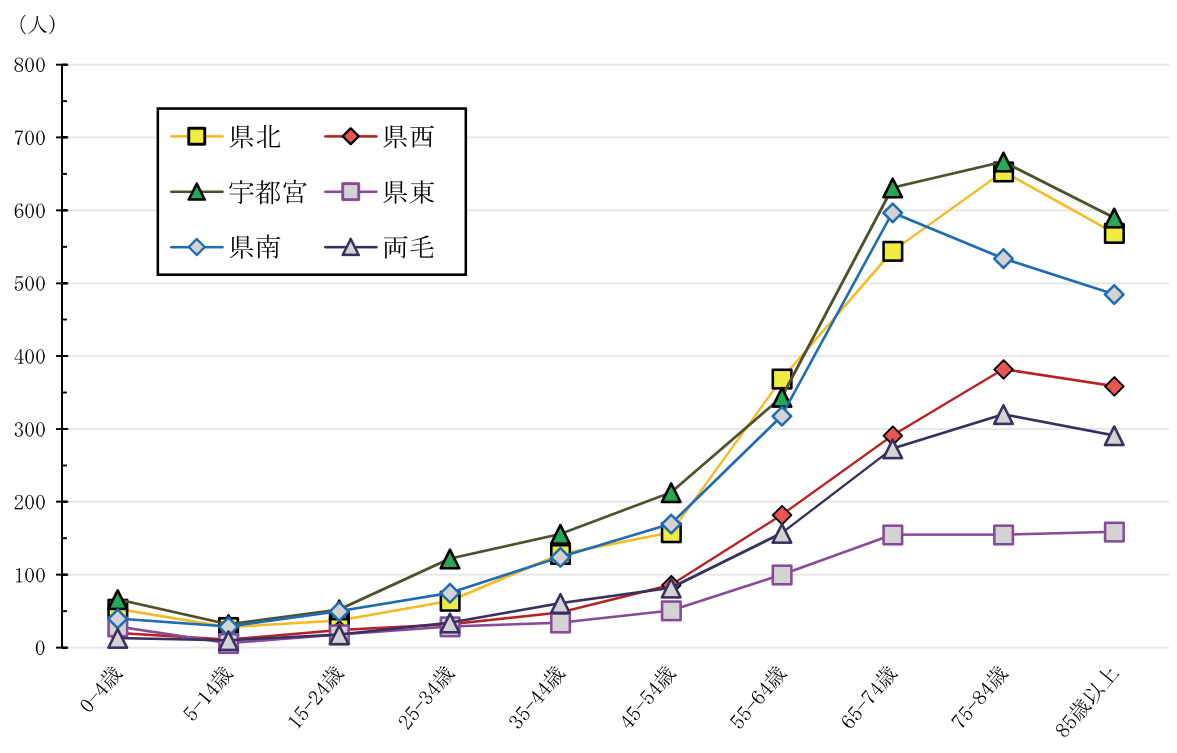
【資料：厚生労働省「患者調査」】

県内医療機関の入院患者数 (性別、年齢階級別)

	施設区分			二次保健医療圏								入院の経緯				入院前の場所				
	総数	うち病院	うち診療所	栃木県計	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	県外及び不詳	予定	予定外(救急以外)	救急	うち救急車搬送あり	家庭等	自院(転院)	他院(転院)	他施設に入院	
総数	13,052	12,571	481	11,347	2,609	1,438	2,877	737	2,426	1,260	1,705	6,446	3,110	3,113	1,330	8,732	331	2,878	691	
性別	男	6,397	6,244	153	5,552	1,315	700	1,321	348	1,219	649	845	3,288	1,353	1,577	686	4,298	215	1,399	256
	女	6,626	6,301	325	5,778	1,289	735	1,554	389	1,201	610	848	3,139	1,753	1,532	641	4,426	115	1,463	433
	不明	29	26	3	17	5	3	2	0	6	1	12	19	4	4	3	8	1	16	2
年齢階級別	0-4歳	264	238	26	221	53	20	66	29	40	13	43	57	101	61	10	143	1	8	0
	5-14歳	139	139	0	116	28	11	32	6	29	10	23	70	37	29	6	125	0	12	0
	15-24歳	223	213	10	199	37	24	52	18	50	18	24	122	53	41	14	193	1	18	4
	25-34歳	440	360	80	356	64	32	122	29	75	34	84	212	141	70	23	382	3	36	9
	35-44歳	662	625	37	551	128	48	156	34	124	61	111	365	173	100	35	500	9	112	15
	45-54歳	887	878	9	760	158	86	213	51	170	82	127	502	181	168	72	635	13	179	31
	55-64歳	1,692	1,666	26	1,470	369	182	344	100	318	157	222	968	359	315	141	1,183	47	370	47
	65-74歳	2,877	2,806	71	2,491	544	291	631	155	597	273	386	1,652	623	543	234	1,987	81	652	93
	75-84歳	3,088	2,993	95	2,711	653	382	667	155	534	320	377	1,498	660	853	375	2,042	85	720	158
	85歳以上	2,757	2,631	126	2,453	569	359	590	159	485	291	304	985	778	930	419	1,533	90	759	333
	不詳	23	22	1	19	6	3	4	1	4	1	4	15	4	3	1	9	1	12	1
	65歳以上(再掲)	8,722	8,430	292	7,655	1,766	1,032	1,888	469	1,616	884	1,067	4,135	2,061	2,326	1,028	5,562	256	2,131	584
	75歳以上(再掲)	5,945	5,624	221	5,164	1,222	741	1,257	314	1,019	611	681	2,483	1,438	1,783	794	3,575	175	1,479	491
65歳以上の占める割合	66.8%	67.1%	60.7%	67.5%	67.7%	71.8%	65.6%	63.6%	66.6%	70.2%	62.6%	64.1%	66.3%	74.7%	77.3%	63.7%	77.3%	74.0%	84.5%	

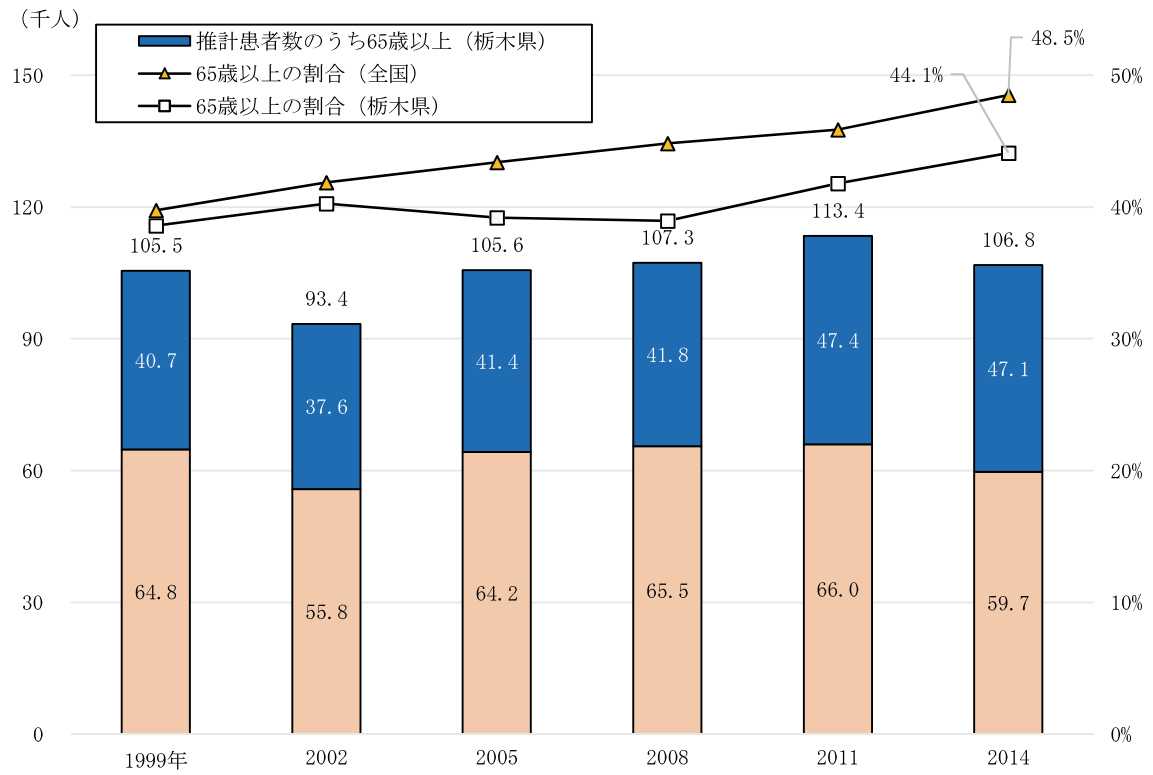
【資料：栃木県「平成28年度栃木県医療実態調査」(総数には性別不明・年齢不詳含む)】

二次保健医療圏別、年齢階級別入院患者数



【資料：栃木県「平成28年度栃木県医療実態調査」】

推計外来患者数の推移



【資料：厚生労働省「患者調査」】

(2) 入院の状況

県内患者の入院受療率は、平成 28 年度栃木県医療実態調査によると 663.1（人口 10 万対）となっています。

年齢階級別では、0～4 歳が 348.1 で、5 歳～14 歳では 80.4 と最も低く、その後はおおむね年齢が高くなるに従い高くなり、55 歳を超えた辺りから急激に上昇しています。

性別では、男性が 653.1、女性が 670.0 となっています。男性では、0～4 歳が 362.7 で、5 歳～14 歳では 84.5 と最も低く、それ以降はおおむね年齢が高くなるに従い上昇しています。女性では、0～4 歳が 332.7 で、5 歳～14 歳では 76.0 と最も低く、それ以降はおおむね年齢が高くなるに従い上昇しています。男女ともにほぼ同様の動きが見受けられますが、女性では 25～34 歳において 305.2 と前後の年齢階級より高くなります。

二次保健医療圏別では、総数で県西保健医療圏（798.1）、県北保健医療圏（689.3）の受療率¹²が比較的高くなっています。

二次保健医療圏別、性別、年齢階級別入院受療率（人口 10 万対）

	二次保健医療圏別							
	栃木県	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	
総数	663.1	689.3	798.1	553.7	517.8	504.4	472.4	
男性	653.1	693.1	793.8	508.9	488.4	508.4	495.6	
女性	670.0	682.7	798.9	597.6	547.3	497.8	449.2	
年齢階級別	0-4歳	348.1	381.3	332.7	289.0	524.5	215.6	144.4
	5-14歳	80.4	86.5	73.7	67.2	46.1	67.6	45.2
	15-24歳	126.8	110.1	157.9	111.5	152.2	109.3	79.0
	25-34歳	208.4	163.1	190.1	194.0	197.2	145.0	132.5
	35-44歳	237.9	249.8	210.8	189.3	175.2	184.0	173.7
	45-54歳	344.5	335.4	366.3	297.1	292.2	271.5	233.2
	55-64歳	637.8	680.6	702.7	552.1	465.5	484.8	439.0
	65-74歳	1,041.4	1,021.0	1,062.1	943.9	774.0	892.3	653.1
	75-84歳	1,847.6	1,972.7	2,121.4	1,703.3	1,290.5	1,377.6	1,226.1
	85歳以上	3,498.0	3,274.6	3,906.4	3,589.0	2,454.8	2,763.5	2,469.2
	65歳以上（再掲）	1,670.2	1,702.0	1,890.3	1,541.9	1,217.7	1,311.5	1,109.4
	75歳以上（再掲）	2,376.4	2,420.9	2,724.6	2,260.9	1,698.4	1,809.6	1,612.9

【資料：栃木県「平成 28 年度栃木県医療実態調査」（総数には性別不明・年齢不詳含む）、人口は「平成 28 年栃木県毎月人口調査報告書」より】

¹² （患者数×100,000）÷人口で算出され、ある特定の日に疾病治療のために、すべての医療施設に入院あるいは通院、又は往診を受けた患者数と人口 10 万人との比率。

平成28年病院報告によると、県内病院の病床利用率¹³は80.8%で、全国値80.1%を0.7ポイント上回っています。

病床の種類別にみると、療養病床は87.8%（全国88.2%）、一般病床は76.4%（全国75.2%）、精神病床は86.1%（全国86.2%）となっています。

二次保健医療圏別にみると、療養病床においては宇都宮保健医療圏（91.6%）が最も高く、両毛保健医療圏（82.6%）が最も低くなっており、一般病床においては宇都宮保健医療圏（79.2%）が最も高く、県東保健医療圏（63.9%）が最も低くなっています。

また県内病院の平均在院日数¹⁴は29.7日で、全国値28.5日を1.2日上回っています。

病床の種類別にみると、療養病床は160.8日（全国152.2日）、一般病床は16.6日（全国16.2日）、精神病床は348.9日（全国269.9日）となっています。

二次保健医療圏別にみると、療養病床においては県東保健医療圏（244.0日）が最も長く、県南保健医療圏（119.3日）が最も短くなっており、一般病床においては県西保健医療圏（18.7日）が最も長く、県南保健医療圏（15.1日）が最も短くなっています。

病床利用率及び平均在院日数

		総数	療養 病床	一般 病床	精神 病床	感染症 病床	結核 病床	介護療養 病床	介護療養 病床を 除く総数	
病床 利用率 (%)	全国	80.1	88.2	75.2	86.2	3.2	34.5	91.4	-	
	栃木県	80.8	87.8	76.4	86.1	8.3	35.6	93.6	-	
	二次 保健 医療 圏	県北	81.1	83.4	78.6	-	-	-	-	-
		県西	83.8	88.4	78.7	-	-	-	-	-
		宇都宮	82.3	91.6	79.2	-	-	-	-	-
		県東	75.8	88.8	63.9	-	-	-	-	-
		県南	80.4	88.9	78.0	-	-	-	-	-
両毛	77.4	82.6	69.1	-	-	-	-	-		
平均 在院 日数 (日)	全国	28.5	152.2	16.2	269.9	7.8	66.3	314.9	27.5	
	栃木県	29.7	160.8	16.6	348.9	5.1	70.6	301.4	29.0	
	二次 保健 医療 圏	県北	33.7	158.1	17.5	-	-	-	-	-
		県西	38.1	181.8	18.7	-	-	-	-	-
		宇都宮	37.5	200.9	17.9	-	-	-	-	-
		県東	30.1	244.0	15.3	-	-	-	-	-
		県南	20.7	119.3	15.1	-	-	-	-	-
両毛	30.0	126.0	16.7	-	-	-	-	-		

【資料：厚生労働省「平成28年病院報告」】

¹³ 在院患者延数×100÷（日数×病床数）で算出され、病床の利用状況を示す指標。

¹⁴ 在院患者延数÷（1/2×〔新入院患者数+退院患者数〕）で算出され、患者がどれくらいの期間入院しているかをみる指標。

(3) 傷病分類別の状況

平成28年度栃木県医療実態調査によると、傷病分類別入院患者数（傷病分類別入院受療率（人口10万対））は、最多が「精神及び行動の障害」で2,732人（138.8）、以下「循環器系の疾患」で2,168人（110.1）、「新生物（腫瘍）」で1,786人（90.7）となっています。

65歳以上では、「循環器系の疾患」で1,819人（348.3）、以下「精神及び行動の障害」で1,324人（253.5）、「新生物（腫瘍）」で1,242人（237.8）であり、高齢化に伴い増加する疾患とされる「心不全」では285人（54.6）、「狭心症、急性心筋梗塞、冠動脈硬化症、陳旧性心筋梗塞、その他の虚血性心疾患」では108人（20.7）、「くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、その他の脳血管疾患」では1,153人（220.8）、「肺炎」では474人（90.8）、「大腿骨の骨折」では323人（61.9）となっています。

「心不全」、「肺炎」、「大腿骨の骨折」では全年齢のうち65歳以上の割合が約9割であるなど、特に高い割合となっており、「狭心症、急性心筋梗塞、冠動脈硬化症、陳旧性心筋梗塞、その他の虚血性心疾患」では男性の患者の割合が高く、「大腿骨の骨折」では女性の患者の割合が高くなっています。

また、平成26年患者調査によると、調査対象日（平成26（2014）年10月中旬の3日間のうち医療施設ごとに定める1日）において継続的に医療を受けている県内の総患者数（傷病別推計）¹⁵は、最多が「循環器系の疾患」で233千人（うち高血圧性疾患が190千人）、以下「消化器系の疾患」で131千人（うち歯肉炎及び歯周疾患が41千人）、「内分泌、栄養及び代謝疾患」で94千人（うち糖尿病が55千人）となっています。

¹⁵ 調査日現在において、継続的に医療を受けている者（調査日には医療施設で受療していない者を含む。）の数を次の算式により推計したもの。

総患者数＝入院患者数＋初診外来患者数＋再来外来患者数×平均診療間隔×調整係数（6/7）

男女別、傷病分類別入院患者数及び入院受療率

	患者数 (人)					受療率 (人口10万対)			
	総数	うち 65歳以上		うち 男性	うち 女性	総数	65歳以上	男性	女性
		65歳以上 の割合							
01 感染症及び寄生虫症	211	146	69.2%	103	108	10.7	28.0	10.5	10.9
02 新生物 (腫瘍)	1,786	1,242	69.5%	1,030	755	90.7	237.8	105.2	76.3
03 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	74	55	74.3%	30	44	3.8	10.5	3.1	4.4
04 内分泌、栄養及び代謝疾患	337	249	73.9%	141	196	17.1	47.7	14.4	19.8
05 精神及び行動の障害	2,732	1,324	48.5%	1,420	1,303	138.8	253.5	145.0	131.8
06 神経系の疾患	783	465	59.4%	413	368	39.8	89.0	42.2	37.2
07 眼及び付属器の疾患	167	126	75.4%	72	95	8.5	24.1	7.4	9.6
08 耳及び乳様突起の疾患	25	14	56.0%	11	14	1.3	2.7	1.1	1.4
09 循環器系の疾患	2,168	1,819	83.9%	1,059	1,101	110.1	348.3	108.1	111.3
うち 心不全	313	285	91.1%	120	193	15.9	54.6	12.3	19.5
うち 狭心症、急性心筋梗塞、冠動脈硬化症、陳旧性心筋梗塞、その他の虚血性心疾患	139	108	77.7%	95	44	7.1	20.7	9.7	4.4
うち くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、その他の脳血管疾患	1,363	1,153	84.6%	663	692	69.2	220.8	67.7	70.0
10 呼吸器系の疾患	1,068	897	84.0%	589	479	54.3	171.8	60.1	48.4
うち 肺炎	529	474	89.6%	272	257	26.9	90.8	27.8	26.0
11 消化器系の疾患	776	537	69.2%	414	362	39.4	102.8	42.3	36.6
12 皮膚及び皮下組織の疾患	130	99	76.2%	64	66	6.6	19.0	6.5	6.7
13 筋骨格系及び結合組織の疾患	624	451	72.3%	236	387	31.7	86.4	24.1	39.1
14 腎尿路生殖器系の疾患	535	397	74.2%	270	265	27.2	76.0	27.6	26.8
15 妊娠、分娩及び産じょく	283	1	0.4%	0	283	14.4	0.2	0.0	28.6
16 周産期に発生した病態	101	0	0.0%	56	45	5.1	0.0	5.7	4.6
17 先天奇形、変形及び染色体異常	67	4	6.0%	39	27	3.4	0.8	4.0	2.7
18 症状、徴候及び以上臨床所見・以上検査所見で他に分類されないもの	85	75	88.2%	41	42	4.3	14.4	4.2	4.2
19 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,021	773	75.7%	375	642	51.9	148.0	38.3	64.9
うち 大腿骨の骨折	359	323	90.0%	84	271	18.2	61.9	8.6	27.4
21 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	10	7	70.0%	4	5	0.5	1.3	0.4	0.5
- その他	69	41	59.4%	30	39	3.5	7.9	3.1	3.9
計	13,052	8,722	66.8%	6,397	6,626	663.1	1,670.2	653.1	670.0

【資料：栃木県「平成28年度栃木県医療実態調査」(総数には性別不明含む)】

(4) 圏域間の流入・流出の状況

平成28年度栃木県医療実態調査によると、当該二次保健医療圏内に居住する患者のうち、当該二次保健医療圏外の医療施設で入院した患者の割合である流出割合は、県東保健医療圏（41.7%）、県西保健医療圏（37.3%）で高くなっており、当該二次保健医療圏内の医療施設で入院した患者のうち、当該二次保健医療圏外に居住する患者の割合である流入割合は、県南保健医療圏（44.1%）、宇都宮保健医療圏（33.6%）で高くなっています。また県外からの流入（県外に居住する患者のうち、県内の医療施設で入院した患者）については886人となっており、県南保健医療圏（450人）、宇都宮保健医療圏（175人）、両毛保健医療圏（152人）で多くなっています。

入院患者数（一般・療養病床）、流入・流出割合

患者住所地 \ 医療機関所在地	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	総計	流出割合
栃木県計	1,621	823	2,676	393	2,496	990	8,999	
県北	1,515	21	289	4	113	2	1,944	22.1%
県西	15	730	227	1	190	2	1,165	37.3%
宇都宮	52	39	1,893	13	318	2	2,317	18.3%
県東	18	2	97	367	146	0	630	41.7%
県南	20	28	154	7	1,647	60	1,916	14.0%
両毛	1	3	16	1	82	924	1,027	10.0%
県外	69	20	175	20	450	152	886	-
不詳	19	55	271	70	79	28	522	-
流入割合	10.4%	13.4%	33.6%	11.1%	44.1%	19.1%	-	-

入院患者数（一般・療養病床、病院）、流入・流出割合

患者住所地 \ 医療機関所在地	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	総計	流出割合
栃木県計	1,532	755	2,551	357	2,422	976	8,593	
県北	1,434	20	282	4	112	2	1,854	22.7%
県西	14	666	218	1	188	2	1,089	38.8%
宇都宮	45	38	1,795	11	317	2	2,208	18.7%
県東	18	2	90	333	146	0	589	43.5%
県南	20	26	151	7	1,578	60	1,842	14.3%
両毛	1	3	15	1	81	910	1,011	10.0%
県外	64	18	160	18	432	144	836	-
不詳	4	54	270	70	72	28	498	-
流入割合	10.2%	13.8%	33.8%	11.2%	44.7%	18.8%	-	-

入院患者数（一般・療養病床、有床診療所）、流入・流出割合

患者住所地 \ 医療機関所在地	県北	県西	宇都宮	県東	県南	両毛	総計	流出割合
栃木県計	89	68	125	36	74	14	406	
県北	81	1	7	0	1	0	90	10.0%
県西	1	64	9	0	2	0	76	15.8%
宇都宮	7	1	98	2	1	0	109	10.1%
県東	0	0	7	34	0	0	41	17.1%
県南	0	2	3	0	69	0	74	6.8%
両毛	0	0	1	0	1	14	16	12.5%
県外	5	2	15	2	18	8	50	-
不詳	15	1	1	0	7	0	24	-
流入割合	13.8%	8.6%	30.0%	10.5%	25.0%	36.4%	-	-

【資料：栃木県「平成28年度栃木県医療実態調査」】

4 医療資源の状況

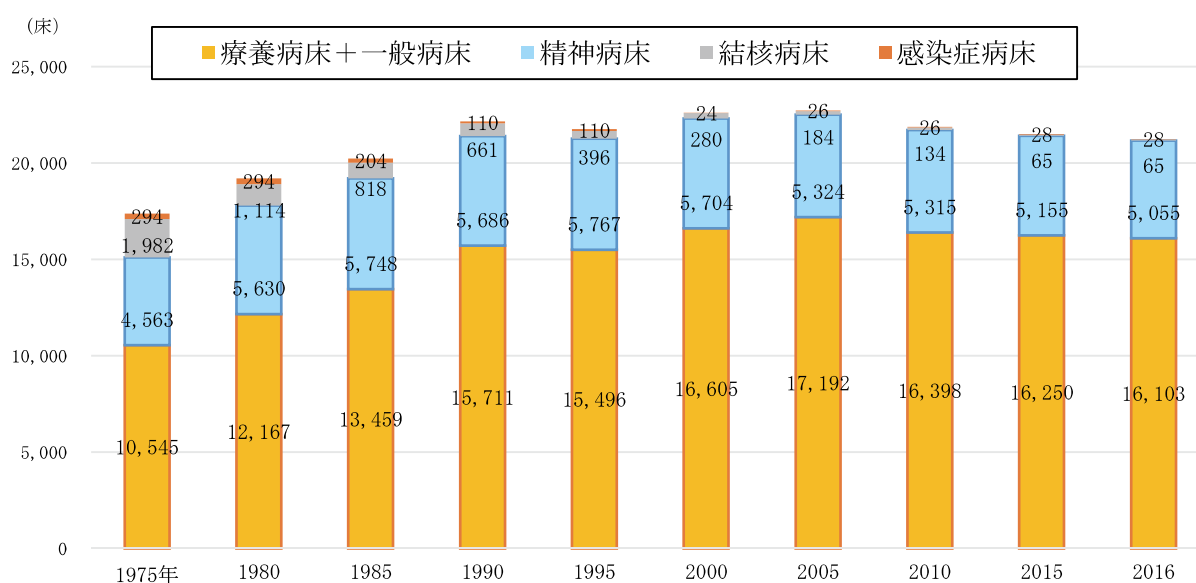
(1) 病院

平成28年医療施設調査によると、平成28(2016)年10月1日現在の県内の病院数は107施設、病床数は21,251床となっています。人口10万人当たりでは、施設数が5.4、療養病床及び一般病床の病床数が819.0となっており、全国の施設数の6.7、一般病床及び療養病床数の960.8に比べ、施設数で1.3、病床数で141.8下回っています。

病院の施設数及び病床数の推移

年次	実数						人口10万対	
	施設数	病床数					施設数	療養病床 + 一般病床
		総数	精神病床	感染症 病床	結核病床	療養病床 + 一般病床		
1975年	128	17,384	4,563	294	1,982	10,545	7.5	621.0
1980年	139	19,205	5,630	294	1,114	12,167	7.7	678.9
1985年	134	20,229	5,748	204	818	13,459	7.1	721.2
1990年	138	22,168	5,686	110	661	15,711	7.1	811.9
1995年	121	21,769	5,767	110	396	15,496	6.1	780.9
2000年	119	22,613	5,704	24	280	16,605	5.9	828.3
2005年	118	22,726	5,324	26	184	17,192	5.9	852.5
2010年	110	21,873	5,315	26	134	16,398	5.5	816.8
2015年	108	21,498	5,155	28	65	16,250	5.5	823.1
2016年	107	21,251	5,055	28	65	16,103	5.4	819.0

種類別病院病床数の推移



【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(2) 一般診療所

平成28年医療施設調査によると、平成28(2016)年10月1日現在の本県の一般診療所は1,429施設(うち有床診療所119施設)、病床数は1,755床となっています。人口10万人当たりでは、施設数が72.7、病床数が89.3となっており、全国の施設数の80.0、病床数の81.5に比べ、施設数は7.3下回りますが、病床数は7.8上回っています。

一般診療所の施設数及び病床数の推移

年次	実数		人口10万対	
	施設数	病床数	施設数	病床数
1975年	900	4,013	53.0	236.3
1980年	954	4,747	53.0	263.9
1985年	986	4,792	52.3	254.4
1990年	1,020	4,699	52.7	242.2
1995年	1,190	4,841	60.0	243.9
2000年	1,287	4,199	64.2	209.4
2005年	1,372	2,900	68.0	143.8
2010年	1,421	2,466	70.8	122.8
2015年	1,439	1,773	72.9	89.8
2016年	1,429	1,755	72.7	89.3

【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(3) 歯科診療所(病院歯科を含む)

平成28年医療施設調査によると、平成28(2016)年10月1日現在の県内の歯科診療所は984施設となっています。人口10万人当たりの施設数は50.1となっており、全国の54.3に比べ4.2下回っています。

また、県内の歯科を標榜する病院は32施設となっています。人口10万人当たりの施設数は1.6となっており、全国の2.0に比べ0.4下回っています。

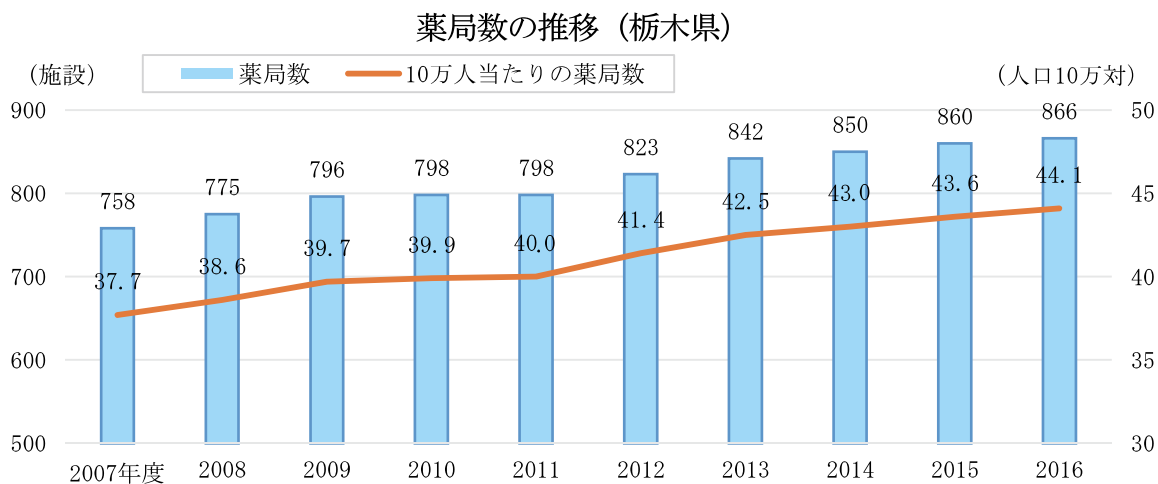
歯科診療所の施設数及び病床数の推移

年次	実数		人口10万対
	施設数	病床数	施設数
1975年	398	9.0	23.4
1980年	480	12.0	26.7
1985年	621	12.0	33.0
1990年	756	3.0	39.1
1995年	862	3.0	43.4
2000年	916	-	45.7
2005年	968	-	48.0
2010年	988	-	49.2
2015年	977	-	49.5
2016年	984	-	50.1

【資料：厚生労働省「医療施設調査」】

(4) 薬局

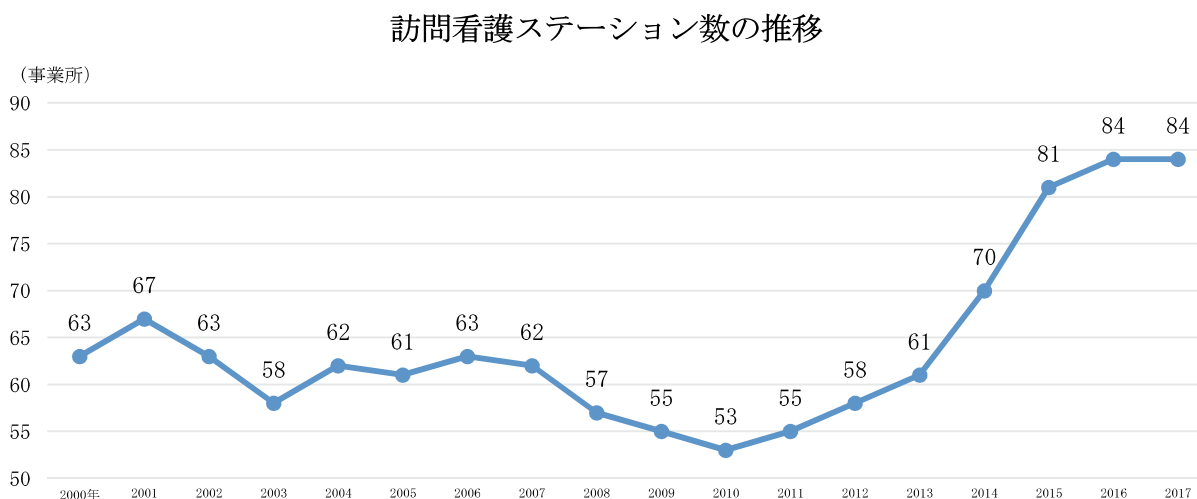
平成 28 年度衛生行政報告例によると、平成 29 (2017) 年 3 月 31 日現在の県内の薬局は 866 施設となっています。人口 10 万人当たりの薬局数は 44.1 となっており、全国の 46.2 に比べ 2.1 下回っています。



【資料：栃木県薬務課調べ】

(5) 訪問看護ステーション

平成 29 (2017) 年 4 月 1 日現在の本県の訪問看護ステーションの数は 84 事業所、人口 10 万人当たりの事業所数は 4.25 となっており、全国の 7.65 と比べて少ない状況です。



【資料：栃木県医療政策課調べ】

(6) 保健所・市町保健センター

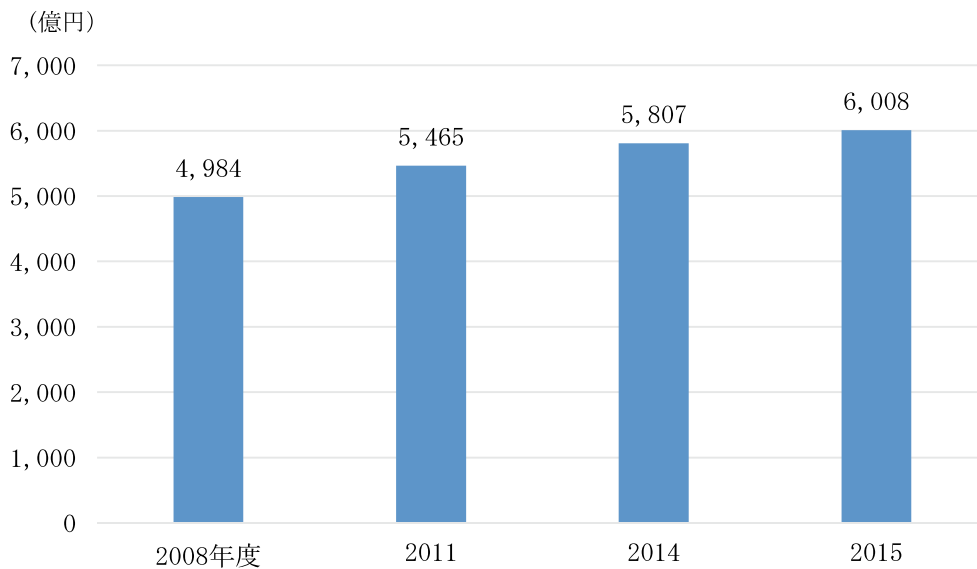
平成 29 (2017) 年 4 月 1 日現在の県内の保健所は 6 か所、市町保健センターは 39 か所となっています。

5 医療費等の状況

本県の医療費は、平成20（2008）年度には4,984億円でしたが、平成27（2015）年度には6,008億円となり、7年間で1,024億円、20.5%増加しています。この伸び率は、同期間の国民医療費全体の伸び率21.8%と比較して低くなっています。

本県の一人当たり医療費は全国値より少なくなっています。このうち、診療種別に見ると、本県は、医科入院、歯科、調剤は全国値より少ないものの、医科入院外は全国値より多くなっています。

本県の医療費の推移



【資料：厚生労働省「国民医療費」】

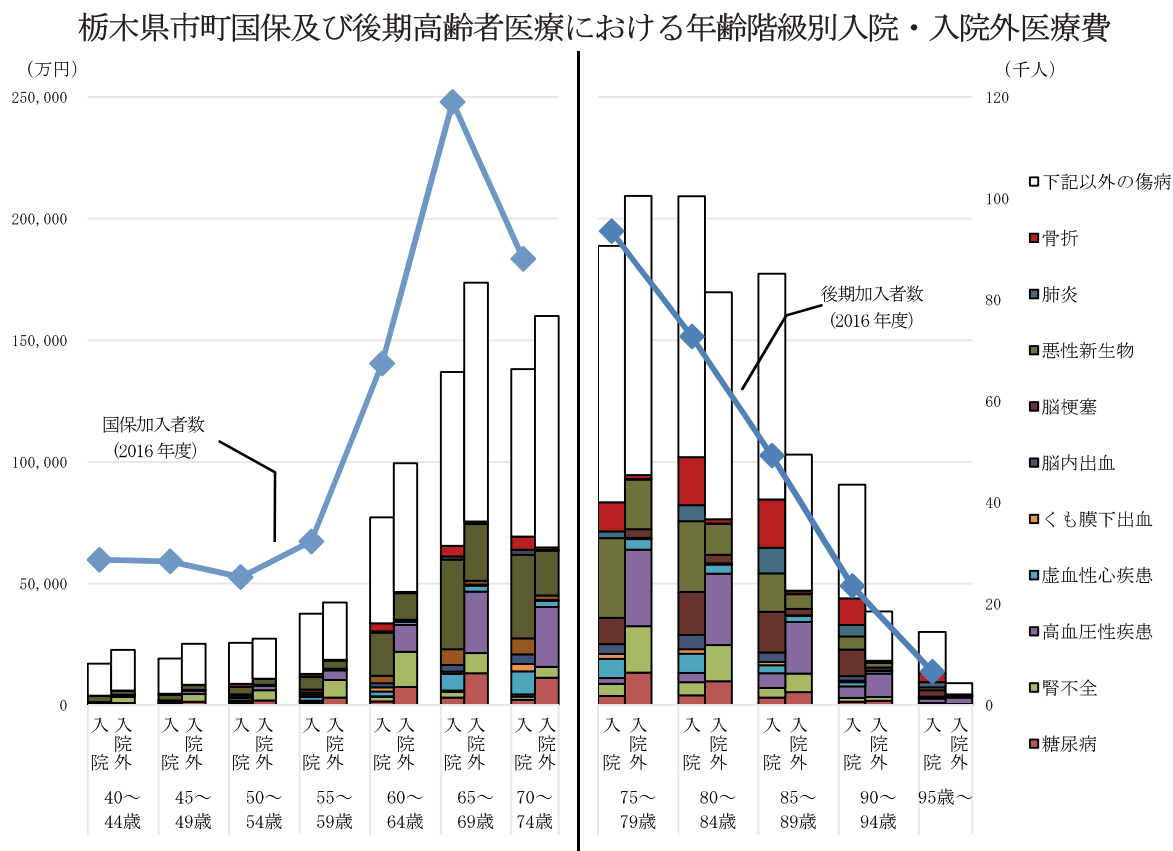
本県の一人当たり年間医療費（入院、入院外、歯科及び調剤別）

	本 県	全 国
一人当たり年間医療費	304 千円 (41 位)	333 千円
うち医科入院	104 千円 (41 位)	123 千円
うち医科入院外	117 千円 (24 位)	114 千円
うち歯科	19 千円 (41 位)	22 千円
うち調剤	54 千円 (42 位)	63 千円

※（ ）内は全国における順位。

【資料：厚生労働省「平成27年度国民医療費」】

栃木県国民健康保険団体連合会が、平成28(2016)年6月審査分として取り扱った県内全市町の国民健康保険及び後期高齢者医療のレセプト(診療報酬明細書)(医科・歯科)では、年齢が高くなるにつれて、糖尿病や脳血管疾患、高血圧性疾患や虚血性心疾患の医療費が増え始めるなど、医療費に占める生活習慣病の割合が高くなっています。また、高齢者においては、特に骨折や肺炎が占める割合が高くなっています。



【資料：栃木県国民健康保険団体連合会「平成28年度国民健康保険疾病分類統計表・平成28年6月審査分」及び栃木県後期高齢者医療広域連合「後期高齢者医療疾病分類表・平成28年6月審査分」に基づき栃木県作成】

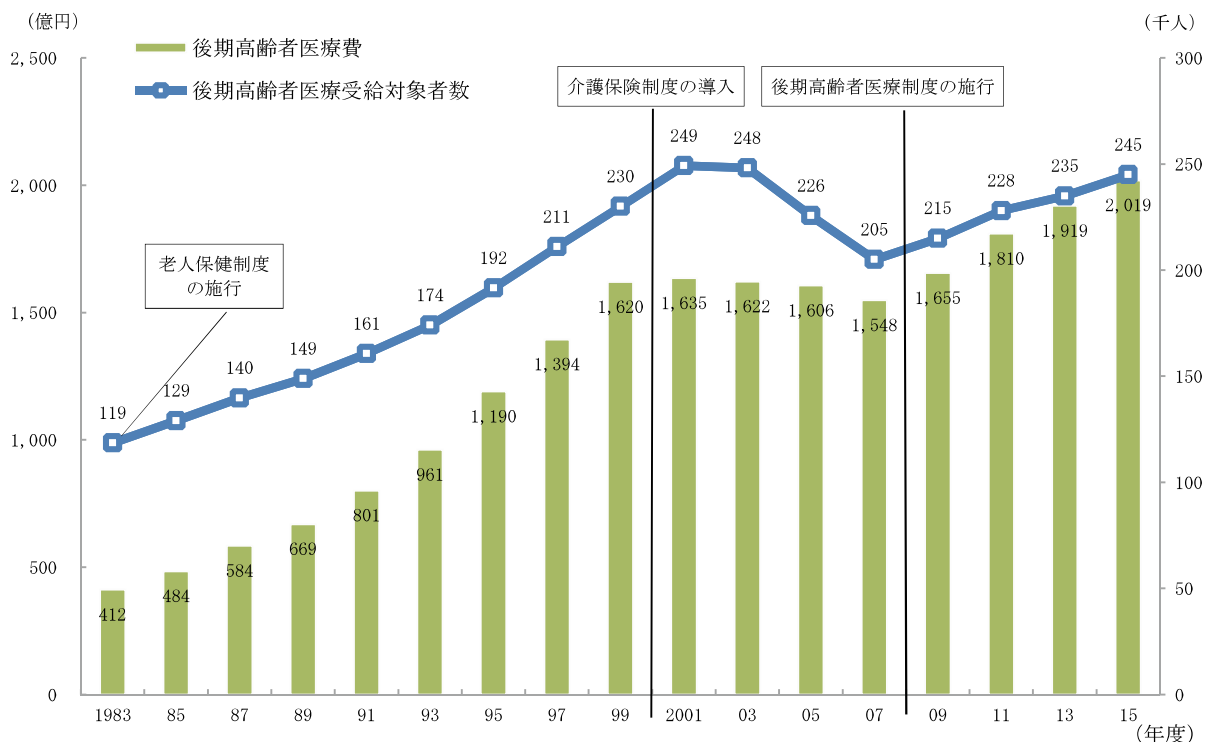
後期高齢者医療費は、平成12(2000)年度の介護保険制度の導入や平成14(2002)年度から5年間で対象年齢が70歳以上から75歳以上に段階的に上げられた後、一時的に減少しましたが、平成19(2007)年度以降、後期高齢者の増加に伴い、後期高齢者医療費も増加しています。

平成27(2015)年度の状況を昭和58(1983)年度の老人保健制度の施行時と比較すると、対象年齢の上げにもかかわらず、後期高齢者の数は約2倍、後期高齢者医療費は約5倍となっています。

平成27(2015)年度の本県の一人当たり後期高齢者医療費は、年間836,426円で、全国値の949,070円より少ない状況です。

入院、入院外及び歯科とも、本県はいずれも全国値を下回っています。特に入院に係る医療費は、全国と比べて年間78,171円少ない状況です。

栃木県の後期高齢者医療受給対象者数と後期高齢者医療費の推移



【資料：厚生労働省「老人医療事業年報及び後期高齢者医療事業年報」】

栃木県の一人当たり年間後期高齢者医療費（入院、入院外及び歯科別）

	本 県	全 国
一人当たり年間後期高齢者医療費	836 千円 (38 位)	949 千円
うち入院医療費	381 千円 (39 位)	460 千円
うち入院外医療費	419 千円 (32 位)	441 千円
うち歯科医療費	25 千円 (39 位)	33 千円

※入院医療費には医科の入院時食事療養・生活療養費を、入院外医療費には調剤費を、歯科医療費には歯科の入院時食事療養・生活療養費を含む。()内は全国における順位。

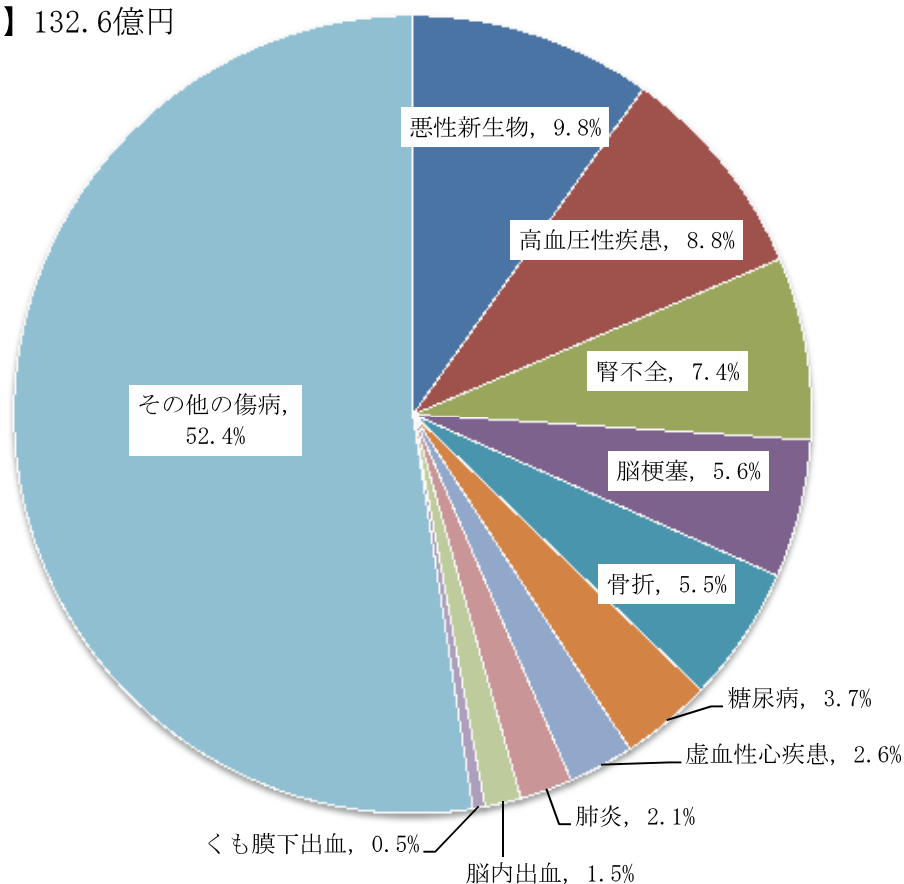
【資料：厚生労働省「平成27年度後期高齢者医療事業年報」】

後期高齢者医療の平成28(2016)年6月のレセプトによると、疾病別では、悪性新生物、高血圧性疾患、腎不全、脳梗塞といった生活習慣病や骨折の占める割合が高くなっています。

疾病別の医療費では、悪性新生物に係るものが最も高く9.8%を占め、高血圧性疾患の8.8%、腎不全の7.4%が続き、腎不全の原疾患の一つである糖尿病は3.7%を占めています。

栃木県の疾病別後期高齢者医療費の構成割合

【総医療費】 132.6億円



【資料：栃木県後期高齢者医療広域連合「平成28年度後期高齢者医療疾病分類統計表・平成28年6月審査分」に基づき栃木県作成】

県民の健康の保持・増進の推進、良質かつ適切な医療の効率的な提供体制の確保により、医療に要する費用の適正化（医療費適正化）の総合的かつ計画的な推進を目的とし、「病床機能の分化及び連携並びに医療・介護の体制整備」や「後発医薬品の安心使用」、「医薬品の適正使用」等に取り組むことを柱とする「栃木県医療費適正化計画（3期計画）」（計画期間平成30（2018）年度～平成35（2023）年度）が策定されています。